

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

（総括・**分担**）研究報告書

「受診後の患者支援に係るモデル事業」の事業報告等を用いた、SBIRTSの取組状況分析

研究分担者 吉本尚 筑波大学・医学医療系・准教授

研究要旨

アルコール依存症等を持つ方への早期介入（多量飲酒者を含む）から回復支援に至る効果的な対策には、切れ目のない支援体制の整備が必要である。医療の枠組みの中では、SBIRTS（Screening, Brief Intervention, Referral to Treatment and Self-help group）が重要とされる。Screening や Brief Intervention のエビデンスは海外で蓄積されてきているが、Referral to Treatment and Self-help group についての知見はまだ乏しいのが現状である。今回、厚生労働省が過去に実施した「受診後の患者支援に係るモデル事業」のデータを二次利用し、医療機関受診者のうちアルコール依存症と診断されたものを抽出し、自助グループへの継続参加状況や自助グループ参加の有無と完全断酒率の関連についての関連を明らかにすることを計画した。2020年4月よりデータの利用のため厚生労働省等と検討を行ったが、データ利用の承認が得られずデータの共有が不許可となった。

A. 研究目的

目的：「受診後の患者支援に係るモデル事業」のデータを用いて、自助グループへの継続参加状況や自助グループ参加の有無と完全断酒率の関連について明らかにする。

B. 研究方法

厚生労働省が行った「平成31年度 受診後の患者支援に係るモデル事業」におけるアルコール依存症の予後のデータを活用し、医療機関受診者のうち、アルコール依存症と診断されたものを抽出する。自助グループの参加、自助グループ参加後3か月、6か月時点での継続参加の有無などを収集する。主要な評価項目は、完全断酒率と自助グループ参加の有無の関連である。

本研究は既存データを用いた解析である。

C. 研究結果

2020年4月よりデータの利用のため厚生労働省等と検討を行ったが、データ利用の承認が得られずデータの共有が不許可となった。

D. 考察

研究実施不可のため、省略する。

E. 結論

研究実施不可のため、省略する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

なし